輝け若人

コンクリート研究者に

鹿児島大学 工学部 海洋土木工学科 4年
出口 青空 さん

私はコンクリートが大好きです。将来は、コンクリートの研究者になりたいと考えています。

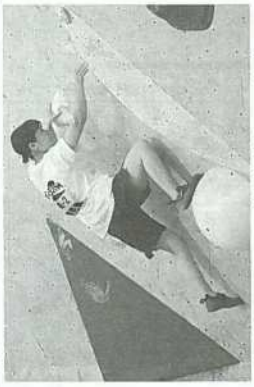
コンクリートとの出会いは、コンクリート工学および材料実験です。コンクリートは無機質で味気ないただの石ころだと思っていましたが、その一つ一つに同じものはなく、それぞれに用途があることを知りました。「もっとコンクリートについて知りたい」。その奥深さに引かれ、建設材料研究室に入りました。卒業論文では、コンクリート中の鉄筋腐食および効果的な維持管理手法の確立に関する研究を行っています。

私は朽ちてゆくコンクリートを見るのが耐えられません。私たちの身の回りには、古くなった構造物がたくさんあります。例えば、コンクリート構造物の劣化要因の一つである塩害では、コンクリート中に内在する塩化物イオンによって鉄筋の腐食が開始し、ひび割れやかぶりコンクリートのはく離が起こり、構造物の性能を著しく低下させます。これらを守っていくためには維持管理が重要であることを知り、また、多くの課題を抱えていることを知りました。そこで、コンクリート構造物の維持管理について、さらに深く学びたいと思い、大学院への進学を決意しました。大学院では、博士課程まで進学し、研究者として生きていきたいと思います。

卒業後の夢は、コンクリート構造物を長持ちさせるための技術を開発し、ふるさと鹿児島が大好きな鹿児島であり続けるための力になっていきたいです。また、土木の奥深さやコンクリートの面白さなどを伝えていきたいと思います。

東条設計の小田さん

スポーツクライミング競技
栃木国体に出場へ



東条設計（東條正博会長）の小田舞幸さんはこのほど、2022年度国民体育大会第42回九州ブロック大会のスポーツクライミング競技（成年女子）に出場し＝写真＝、見事、3位に輝いた。国体への出場権を獲得でき、喜びの笑みを見せた。

小学生のころにスポーツクライミングの少年団に属し、何度も壁を登ってきた小田さん。地元施設であった体験イベントで魅力に触れ、高い場所から見渡す景色に感動したことが入団のきっかけになった。「いろんな人とどう登るか相談することやライバルも仲間だと思える環境が楽しい」。新社会人として活躍する現在も、練習を重ねる日々を送っている。

喜びの笑みを見せる小田さん＝写真右

熊本県が舞台となった大会には、九州7県の代表が2人ずつ出場。リードとボルダリングの2種目でチーム成績を競った。日本代表選手もいるハイレベルな競技となった中「とても緊張したが、3位以内に入れるかもしれない期待もあった」。努力のかいもあって代表権を獲得でき「会社のニューエース」と社内で祝福の声が上がっている。

10月、栃木県で開催予定の国体では「入賞の8位までに入ること」が目標。仕事や練習を支えてくれる同社の応援を背に「リラックスして臨み、自分の登りができたら」と笑顔を見せた。

グリーンヒルでコース管理
竹ノ内里帆さん
笑顔のために芝管理で奔走

薩摩川内市市比野のグリーンヒルカントリークラブでコース管理を行う竹ノ内里帆さんは、入社5年目でコース内を走り回る毎日。生長する芝の品質を保ち、いつも美しい状態に維持している。「皆さんが笑顔でプレーするのを見るのが楽しみ」とやりがいを語る。

同市のれいめい高校卒業後に植村企業グループの南九州開発に入社。作業機械に興味があり、地元ゴルフ場を選んだ。毎日朝から夕方まで乗用芝刈り機などに乗り込み、利用していないホールを見つけて芝を刈る＝写真＝。特にグリーンには気を遣うという。「これまでゴルフとは縁がなかったが、毎日の作業で仕事の大切さを感じ、楽しさが増してきた」と語る。

夏場は炎天下、冬場は芝の凍結など、天候に左右されるのは建設業とも共通する。特に大雨のあとは、バンカーなどの困難な作業も多い。また、芝は生き物で、色が変わっていれば病気の可能性もあるので点検にも携わる。日々の管理を大切にして状態を確認するひた向きな取り組みが結果を生む。「皆さんからの〝いつもきれいにしてくれてありがとう〟という言葉が励みになる」とうらさを見せない。

休日は音楽を聴きながらランニングをして体調を整える1997年10月生まれの24歳。薩摩川内市出身。

全国へ火花散らす
九州高校生溶接技術競技会

第14回九州地区高校生溶接技術競技会が17日、霧島市の県工業技術センターであった。8県の代表が大分県の会場に集結する計画だったが、新型コロナウイルス感染症の影響から各県ごとで開催。3校から出場した5人の選手らは、全国大会の切符をかけて熱い火花を散らした。

競技会に臨んだのは、薩南工業3人、頴娃1人、奄美1人の生徒たち＝写真＝。使用する材料は高校生ものづくりコンテスト県大会の溶接部門と変わらないが、溶接作業の際には最終層の中間点で中断する必要がある。審査される見栄えなどの難易度が上がる課題となっている。

それぞれ団体（3人1チーム）や個人の部に出場した選手らは、工具点検など受けたあと開先加工を実施。保護具に身を包み行った溶接作業も額に汗を浮かべながら、真剣なまなざしで取り組んだ。

薩南工業3年生の米倉礼悟（らいごさんは、自分に点数をつけるなら100点ではなかったが、先生や先輩にもらったアドバイスを力に替えることができた。競技を終えてほっとしている」と笑みを見せた。

審査項目の外観・曲げ試験は、九州地区溶接技術検定委員会が行う。上位成績者が11月ごろに予定する2022年度高校生ものづくりコンテスト全国大会に進むことができる。

空き家の利活用学生コンペ
3グループが1次通過
＝県＝

県は、2022年度からの新たな取り組みとしてスタートした空き家の利活用アイデア学生コンペの1次審査をこのほど行い、3グループが通過したことを明らかにした。各グループは今後、企画提案書の作成等に入り、2023年3月中旬の最終審査に臨む。

「空き家を地域の宝に！―利活用アイデア学生コンペ」と称した初の取り組み。応募は、県内の高校、大学、専門学校などに在籍する生徒や学生で構成する2人以上のグループが対象となった。

書類による1次審査は7月20日に実施。Enokidayoshida（第一工科大学）、かごだんSTEP展開プロジェクト（鹿児島大学）、けんたんトレジャーガールズ（県立短期大学）―の3グループから応募があり、いずれも通過が決まった。

各グループは今後、最終審査に向けた企画提案書の作成に入る。作成に当たっては、当該空き家の所有者等から承諾を得る必要があり、地域住民らを交えたワークショップも最低4回以上行う。

ガイドブック掲載企業
31日まで募集
垂水市

垂水市は、企業ガイドブックの掲載を希望する企業等を募集する。新たな雇用計画を見込む市内の事業所が対象で、掲載無料。申し込みは31日まで。

A4サイズの冊子で、市内の中高生や新規学卒者、U・I・Jターン希望者向けに企業の取り組みをPRできる内容。教育機関や就職支援機関、各種イベント等での配布のほか、市ホームページ掲載も予定している。

問い合わせは、企画政策課（☎0994・32・1143）まで。